





令和3年10月1日発行  
 第8号  
 岡山市教育委員会  
 生涯学習課公民館振興室  
 (岡山市北区幸町 10-16,  
 234-6015)  
 公民館振興室 HP 



## 10月1日より公民館活動を再開 引き続き感防止対策の徹底をお願いします

新型コロナウイルス対策の一環で、公民館では、年初から「大きな声を出すことや歌うこと」など一部の活動の利用を中止してきました。この度、令和3年10月1日に、「まん延防止等重点措置」が解除されたことから、これら利用を中止していた活動についても、感染防止対策を徹底した上で、利用を再開します。

長い間、利用制限にご協力いただきありがとうございました。まだ楽観できる状況ではありませんが、今までできなかった活動ができることにより、利用者のみなさんと地域に元気が戻るよう、公民館としてできることをしていきたいと思ひます。公民館では、新型コロナウイルス感染症対策の指針を作成しています。三密対策や、それぞれの活動における感染防止対策を行いつつ、公民館をご活用ください。指針は右のQRコードからご覧ください。



### 地域の子育て情報を掲載

## 「子育てミニ情報」

岡山市内の37の公民館では、それぞれの中学校区ごとに子育てに関する地域情報を発信する「子育てミニ情報」を作っています。幼児・親子対象の公民館講座や、学区内の乳幼児健診や育児相談の日程、おやこクラブや地域文庫等の活動日、保育園や幼稚園の園庭開放、子ども食堂など、主に就学前から学童期の子どもと保護者の皆様に役立つさまざまな情報を載せています。裏面では児童館や図書館、主な子育てに関する相談先の電話番号や、webサイトなどもお知らせしています。令和3年度版「子育てミニ情報」をご覧になるには、下記のQRコードからご覧ください。



配布用の学区ごとの「子育てミニ情報」や、閲覧用に全学区の情報を冊子にしたものを各公民館の窓口に置いてあります。

### 発達障害者支援講座・グループ紹介冊子

## 「あせらず あわてず すすもうや」

公民館で活動している発達障害者支援に関する講座・グループの活動紹介冊子「あせらず あわてず すすもうや」(令和3年度版)を作成しました。発達障害について学びたい、相談先が知りたい、仲間がほしい、と思っている方々にとって一助となれば幸いです。内容は右のQRコードからご覧ください。



閲覧用に各公民館に冊子を置いてあります。一度公民館へ足を運んでみてください。

(QRコードの商標はデンソーウェブの登録商標です)

## 公民館の実践紹介⑭ 灘崎公民館

# 中高生登録制ボランティア「チーム灘」の活動をとおして 若者の地域参画を

### 「チーム灘」誕生

灘崎地域は、岡山市南区の最南端に位置します。常山など標高 300m前後の里山と児島湾の干拓による広大な平野が広がる地域です。縄文時代の史跡である彦崎貝塚をはじめ、常山城跡、数々の干拓遺跡、推定樹齢 300 年を超える奥迫川の大山桜や延長庵の大イチョウなど、歴史と自然豊かな灘崎地域も年々少子高齢化が進み、他地域同様、地域活動の担い手不足が課題となっていました。加えて、地域内には高校がありません。中学校卒業後は岡山市だけではなく、隣接する倉敷市や玉野市へも進学していくため、多くの子どもたちは卒業と同時に自分たちが住む地域とのつながりが薄くなっていました。そこで公民館から中学校に相談し、子どもたちが地域の中でボランティア活動をしながらか地域との関わりを続けていけるよう、平成 29 年度、中学生以上を対象として、中高生登録制ボランティア「チーム灘」が誕生しました。

### 地域の中でボランティア活動

「チーム灘」は、令和 3 年度で結成 5 年目を迎えます。登録制にしたのは、地域行事などのボランティア活動に継続して関わることで、子どもたちに地域の中で活躍できる場があること、そして自分たちが地域の方々に必要とされていることを実感してもらいたいとの思いからです。中学校を卒業後、高校生になっても活動したいと引き続き登録してくれる生徒も増えました。

毎年度当初に「チーム灘」に登録すれば、年間を通してメンバー一人一人にボランティアの案内が届き、自分が参加したい行事に参加して、ボランティア活動をすることができます。活動にあたっては、多くの大人たちが関わります。公民館をはじめ、行事を主催する地域の各種団体、公民館運営委員会の専門部会（青少年健全育成部会・地域づくり部会）の大人たちが、打ち合わせから実際の活動、振り返りまでをサポートします。

これまで、公民館主催の小学生向け講座でお手伝いをしたり、灘崎文化まつりで司会や受付、各種体験コーナーの補助をしたり、小学校のPTAが主催する土曜授業で防災ゲームの進行役をしたりと様々なボランティア活動を行ってきました。平成 30 年度に行われた岡山市立公民館大会では、灘崎の歴史をまとめた朗読劇“なださき 5000 年の歩み”を披露し、オープニングを飾りました。

### ピンチ！活動ができない

そのような矢先、新型コロナウイルス感染症が世界的に猛威をふるい、その感染拡大防止のため、令和 2 年度は、あらゆる活動が中止になりました。学校も休校となる中、事態が少し落ち着き始めた夏頃ようやくメンバーの募集を開始することができました。しかし、灘崎文化まつりは中止、小学生向けの講座も中止、地域の各種行事も軒並み中止が相次ぎ、この時点ではなかなか活動の見通しを持てずにいたのです。ところが、このような状況の中でも 37 人（中学生 32 人・高校生 5 人）ものメンバーが集まりました。活動ができない中でもこの子どもたちの意欲を大事にしたい、大人数では集まりにくい状況の中でもつながりを持ち続けたいとの思いから、高校生だけでも定期的に集まり話し合いを行う「高校生ミーティング」を開始しました。

### 若者の力で地域を元気に

月に 1 回「高校生ミーティング」を行う中で、状況が落ち着き、活動を再開できるようになった時に向けての準備として、「全体ミーティング」を行うことにしました。ボランティアとは何か？どんな灘崎地域になったらいいか？そのために「チーム灘」としてどんな活動ができるのか？ということ。「チーム灘」のメンバー全員と活動をサポートしてくれる大人たちと一緒に考えるワークショップです。パワーポイント資料の準備から当日の進行まで高校生が中心となって行いました。「ボランティアについて改めて考えることができた」、「考えをみんなで共有したのがよかった」、「地域がより活発で楽しくなるように、積極的にボランティア活動をしていきたい」などの意見が出ました。ボランティア活動はできない 1 年でしたが、自分たちが関わることで地域をより良くしていきたいという思いが芽生えつつあることを確認することができました。



令和 3 年度は、83 人（中学生 70 人・高校生 13 人）ものメンバーが集まりました。中学生になったら「チーム灘」に入りたいという小学生の声も聞こえてきており、「チーム灘」が少しずつ地域の中で認知されてきているようです。まだまだコロナ禍ではありますが、子どもたちの思いを大切にしながら、できることを実践し、若者の力で地域を元気にしていけたらと思います。

## 公民館の実践紹介⑮ **南公民館**

# 食をととした子どもの居場所づくり

## 地域みんながつながる場所「子ども食堂ひだまり」

核家族化や共働き、ひとり親家庭の増加により、子どもの孤食が増えています。孤食は、栄養が偏りがちになったりコミュニケーションの機会が減ったりなど、子どもの育ちに影響を与えていると言われています。また、日本の子どもの7人に1人が経済的困窮の状況にあると言われています。

そんな状況の中、「子どもが一人でも行ける、子どもも大人も誰でもふれあえる、子どもを中心とした居場所を作ろう」と、地域の有志の方々が立ち上がり、公民館に子ども食堂開催の相談を持ち掛けられました。地域の方々の課題解決意識と熱意と行動力、そして当時の公民館職員の活動支援があつて始まった「子ども食堂ひだまり」は、現在活動5年目を迎えています。

### “居心地のいい場所”づくり

「子ども食堂ひだまり」（以下「ひだまり」）を運営しているのは、12名のスタッフと、開催当日に調理や受付・配膳などを担当する約10名のサポーターです。ボランティアとして、高校生や大学生も当日の運営に関わっています。公民館職員は相談役としてスタッフメンバーに入ります。全員に必ず役割があり、コミュニケーションを大切にしながら、わきあいあいとした雰囲気、「ひだまり」を運営しています。

「ひだまり」では子ども達への学習支援も行っています。令和3年の夏休みには、2日間、岡山南高校のボランティアと公民館長も加わって、小学生の学習のサポートをしました。



▲学習支援の様子



▲コロナ禍以前の餅つきの様子

「ひだまり」の活動を継続しているうちに、サポーターとして活動する方や新たに参加する子どもたちが増え、今では親子連れの方や高齢の方も参加され賑わっています。公民館主催講座「おっさんの集い」メンバーと一緒に昔遊びをする機会もあり、子ども達に人気です。地域に暮らす人同士の世代間の交流が生まれるのも、「ひだまり」の魅力の一つです。参加する子どもも

大人もスタッフ・サポーターにとっても“居心地のいい場所”になっています。

### たくさんの協力者に支えられて

「ひだまり」は、多くの協力者に支えられて成り立っています。地域の農家の方々や、民生・児童委員の方々、町内会、社会福祉協議会、そして地元の企業などです。スタッフのみなさんが大切に築き上げた地域の方々との繋がりが、寄付や活動支援という形で「ひだまり」の活動を力強く後押ししてくれています。公民館も広報活動や活動の記録、活動報告などを行い、活動を支援し続けています。

### 新たな取組への挑戦～フードドライブ～

今年度、初めての取組として、子ども食堂に来ることが難しい方に対しても何かできることがないかとの思いから、フードドライブを実施しました。

「ひだまり」で用意した新米と企業から寄付していただいた食べ物や飲み物をセットにして、必要とされている方にお渡しする活動です。公民館と担当課を通じて親子応援メールでフードドライブ実施の呼びかけを行い、当日は10組が受け取りに来られました。来場者への聞き取りでお米にニーズがあることがわかったので次回もお米を中心としたフードドライブを実施する予定です。



▲フードドライブでお渡しした新米と飲食物

### 子どもたちの居場所づくりを今後も支援します

現在は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、人数制限や活動時間の短縮、お楽しみのレクリエーションは実施しないなど縮小して活動を継続しています。食事中は「黙食」を徹底して、全員前を向いて食べています。コロナ禍で苦しい状況だからこそ、子ども食堂を続ける必要性がより一層高まっていると感じます。人のぬくもりが感じられ安心できる場所、栄養バランスが考えられたおいしい手作りの食事、そして温かく迎え入れ見守るスタッフ・サポーターの存在。人と人がつながり、地域の子も大人が集うあたたかい陽だまりのような居場所として「ひだまり」が在り続けられるよう、公民館は、スタッフ・サポーターの皆さんと一緒に「ひだまり」の運営を考え、活動を応援・支援し続けます。

# 公民館をもっと身近に感じてほしい オープン公民館 for Tomiyama を開催

8月22日(日)に富山公民館で、公民館をもっと身近に感じてもらい、様々な世代の人に利用し活用してもらおうと「オープン公民館 for Tomiyama」が開催されました。直前に岡山県がまん延防止等重点措置の対象となったため、対象年齢が小学生以下の7つの企画は中止し、コロナ対策を徹底しながら3つの企画を行い、参加した大人はもちろん、中学生たちにもとても貴重な学びの場になりました。

## ジュニア防災

中学生に防災意識や防災力を高めてもらうことを目的に内容を変えながら実施しており今年で7回目になります。今回は災害時に起こりうる可能性の高い様々な問題について、グループごとに話し合いました。岡山大学被災地支援団体「おかやまバトン」の大学生たちがファシリテートし、視点を変えたり身近な問題に置き換えたりと、フォローすることによって、次第に中学生の理解も深まりました。



短時間にも関わらず、進行役からの問いかけに対して一人一人が自分の言葉でしっかりと自分を表現することができるようになりました。

## わが青春の一曲

まだまだ現役世代といえる50・60歳代を対象に限定し、男女7名の発表者がそれぞれの青春時代の思い出の曲を紹介しました。



全員でその歌を聴いた後、当時の思い出や曲に関わるエピソード等を語り合いました。「私鉄沿線」「君は天然色」「なごり雪」など、懐かしい曲が呼び水となり、各グループでも大いに盛り上がり、知らず知らずのうちに“熱弁”となっていた方も……。これまで公民館活動に関わりがなかった方の飛び入り参加もありました。音楽を通じて、知らない人同士もつながることができた楽しいひとときとなりました。

## 人生を変えるワークショップ

NPO法人「だっぴ」の協力のもと、富山中学校の生徒17名と大人の方のファシリテーター8名（「とみやま未来塾」塾生6名、ノートルダム清心女子大学の社会教育実習生2名）が、各グループに分かれ様々なテーマに対する自分の考えをフリップに書いて自由に話し合いました。

年齢や性別とは関係なく、相手の意見を受け止め、お互いを認め合うこととフラットな学びの場



から得られる違いや共感から、自分のことをみつけ、将来について考えるきっかけとなることを目的としました。



中学生の参加者からは「自分の考えに共感してもらえて嬉しかった」「他の人の意見を聞くことで色々ヒントになった」「色々な人に出逢えてよかった」「これからの人生が待ち遠しい」「失敗したら、また前に向かってチャレンジすればよいことを知った」などの感想が寄せられました。